

1 全体計画

学校の教育目標

人権尊重の精神を基盤に、レジリエンスをはぐくみ、21世紀をよりよく生き抜く力を身に付けるために
 ○学び合う ○認め合う ○高め合う ○支え合う

令和3年度学校経営方針

○一人ひとりの能力を最大限に伸ばす学校 ○自己肯定感や自己肯定感を高める学校
 ○安全で安心な学校 ○地域とともにある学校

本校の捉える「確かな学力」

- ・実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」
- ・未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」
- ・学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」

令和3年度の指導の重点

<各教科>

・三つの資質・能力をバランスよく育成するための「主体的・対話的で、深い学び」を取り入れた授業の展開

・「個別最適な学び」と「社会につながる協働的な学び」の充実を目指した一人一台端末や電子黒板等の効果的な活用

<特別の教科 道徳>

・道徳科を要とした全ての教育活動において、自己肯定感、自己有用感を高め、他者を思いやる心や自他の生命を尊重する態度を育成

・「考え、議論する道徳」の授業の充実

<特別活動>

・実践的な防災教育や防犯教育の推進

・様々な自主的活動を通じた自治的能力の醸成

<総合的な学習の時間>

・学校 2020 レガシーとして、日本の伝統・文化理解、障害者理解、ボランティアマインドの育成を推進

・「課題の設定」→「情報の収集」→「整理・分析」→「まとめ・表現」の一連の探究的な学習を通じた自らの学びの深化

<生活指導>

・いじめの未然防止、早期発見、早期対応、早期解消

・学力向上の基盤となる基本的な生活習慣の確立

・交流及び協同学習を通じた多様性の理解と共生

<進路指導>

・社会の出来事に対する関心を高め、自己理解を深めるとともに、キャリア・パスポートの活用を通して、自らの生き方を考え、主体的に進路を選択できる力を育成

授業改善の視点

指導内容・指導方法の工夫

・各種学力調査や体力テスト、意識調査の分析結果を踏まえた生徒の実態や特性を生かした授業の構築

・学習への興味・関心を高め、理解を深めるためのICTの効果的な活用

教育課程編成上の工夫

・数学科及び英語科における少人数・習熟度別指導を生かした個に応じた指導の実現

・道徳教育推進教師を中心とした学校全体で取り組む道徳科の授業の充実

評価の工夫

・目標に準拠した評価を通してきめ細やかな学習指導の充実と学習内容の確実な定着を実現

・新たな観点別評価に対する共通理解を深め、その妥当性、信頼性を担保

校内研究・研修の工夫

・「これからの時代に求められる資質・能力の育成のための教育活動の開発と実践-カリキュラム・マネジメントを通して」をテーマとした単元配列表の作成

・各種調査等の結果を分析し、生徒の実態や特性に応じた授業改善を組織的に実施

小学校との連携

・学びの連続性を重視するとともに、連携小学校4校との教育課程の滑らかな接続を重視

・定期的な第三者評価委員会を通じた連携小学校との目指す生徒像の共有化

家庭・地域との連携

・学校だよりやホームページ等での積極的な情報発信を通じ、本校の教育課程の趣旨や内容、学力向上に向けた取組等を保護者や地域と共有

学力向上に向けた任期付短時間勤務教員の活用

・放課後学習教室「まなびや」の講師として活用し、個に応じた指導を充実
 ・通常の学級における数学の授業や、I組における理科の授業の充実

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

<p>国語科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○目的や場面に応じて的確に伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 ○テーマや条件、文章の形態に応じて、適切に書く力を育成する。 ○読書を通して理解したり、考えたりしたことを知識や経験と結び付け、考えを広げたり、深めたりする力を育てる。 ○言語感覚を豊かにするとともに、我が国の言語文化に進んで関わろうとする態度を育てる。
<p>令和3年度「中野区学力にかかわる調査 国語」の結果より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての学年で目標値を上回ったが、いずれも学年においても、新出漢字を繰り返し練習したり、国語辞典や漢和辞典を使って知らない言葉を調べたりしていると回答した生徒が少ない。 ・第1学年及び第2学年では、「漢字の読み」、「漢字の書き」に課題が見られ、第3学年では、同音異義語の理解に課題が見られた。計画的・系統的に知識・技能の定着を図ることが求められる。

【中学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・区の調査において、「話すこと・聞くこと」の問題が目標値を大きく下回った。 ・既習の漢字を平仮名で書く傾向がある。 ・条件に沿って文章を書く力が定着している生徒が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や必要に応じて話の内容を正確に捉えることに課題が見られる。 ・小学校で習った漢字の読み書きが、定着していない。 ・集めた材料を整理し、根拠に基づいて適切に考えをまとめる力が十分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・報告や紹介など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見を述べたりする言語活動を積極的に取り入れる。その際、聞き手には、話し手が言いたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出ししたりする活動を行わせるとともに、質問するタイミングについても考えさせる。 ・既習の漢字を平仮名で書いている場合には、正しい漢字を示すと共に、普段から漢字を使って文章を書くよう指導する。また、定期的に小テストを実施し、新出漢字の定着を図る。 ・集めた材料を観点に沿って比較、分類、関係付けするなどして整理させながら考えをまとめさせる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・区の調査における校内平均正答率は目標値よりも概ね上回っているが、「漢字の読み」、「漢字の書き」が、区の平均正答率を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読み書きが定着していない。 ・文章の構成や展開、表現の仕方を分析的に捉え、書き手の目的や意図を考えたり、その効果について考えたりすることに課題が見られる。 ・要点を明確にした文章を構成する力が未定着である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に小テストを実施することで定着を図る。 ・文章を分析的に捉える課題を提示しつつ、類似する文章と比較することで作者の意図を読み取らせる。 ・三角ロジック等を用いながら構成メモを作成し、要点が伝わりやすい文章を作成する力を身につけさせる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・国の調査では、全国や都の平均正答率を大きく上回っている。 ・手紙を書く機会が減っていることから、手紙の書き方について理解していない生徒がいる。 ・文法・語句に関する知識の定着が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」の「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」ことに課題が見られた。 ・伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように手紙を書く工夫はできているが、手紙の書き方の基本については理解できていない。 ・尊敬語と謙譲語の区別や同音異義語・同訓異字の書き分けに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近代以降の代表的な文学作品に挑戦し、表現や背景、場面の展開や登場人物の描写などに着目して読み、それに対する自分の考えを記録したり、伝え合ったりする活動を取り入れる。 ・日常生活における具体的な場面を想定し、目上の人への手紙や定型に沿った手紙の書き方を練習させる。 ・同音異義語の書き分けについては、語彙指導とともに復習の機会を設定する。同訓異字の書き分けについては、具体的な例文を挙げながら指導する。また漢字クイズや小テスト作りに取り組みさせることで楽しく覚えられるようにする。

(2) 社会科

社会科の重点

- 多くの資料や統計を活用・分析することで、資料をうまく活用する力を身に付けさせ、思考力・判断力・表現力を育成する。
- 基礎的な知識を身に付けさせるとともに、社会の変化に主体的に対応できる能力を育て、自ら学ぶ意欲や課題を見出し追究する態度を育成する。

【中学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的分野に関しては、歴史的事象に前向きな姿勢や発言が見られる。歴史的人物や事象に対する知識もあり、意欲的に授業に参加している。 ・地理的分野に関しては、自分の考えを積極的に記述する姿が見られる。対話にも進んで参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的分野では、学力差があり、基礎の定着が不十分な生徒も見られる。歴史的事象にのみ注目する様子も見られ、学習の関連性を考察することに課題がある。 ・地理的分野では、一面的な事象の見方をする生徒が多く、地理的事象を普遍的なものとして捉えるという課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的分野では、日々の授業で定期的に小テストを行い、学習の定着を図る。学習のまとめの過程で思考ツールや板書などを用いて1時間の学習を構造化する時間を意図的に作り、歴史的事象同士の関連性を意識できる取組を行う。 ・地理的分野では、ipadなどを使った対話的な活動を実施し、生徒同士の意見交流を行ったり、異なる見方ができる資料などを提示したりするなど多面的に捉えられる取組を行う。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象について取り扱う際、様々な分野の方々にゲストティーチャーとして授業に参加してもらった。その結果、生徒は、主体的に授業にかかわり、興味をもって学習に取り組むことができた。 ・知識・技能の定着は見られたが、思考力については、十分に定着できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識の羅列にとどまらず、社会的な見方・考え方を養う。例えば、「地図」「絵」等の資料を活用して、それらの事象を関連付け、その関係性を説明するなど、考え、発信する授業を構築する。 ・知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力を育成する手立てや工夫が必要である。時間を要する内容でもあるので、効率性も重視する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストを定期的に施し知識・技能の定着を図る。基本的な知識・技能が定着した後「単元を貫く問い」を立て、「なぜそうなるのか」を主体的に自らの問題として考えさせる。「書く」ことを重視して、思考力を養う。 ・引き続き、ゲストティーチャーを活用し、生徒の興味を引き出すことで「生きた社会科」を目指す。 ・「朝日中高生新聞」をipadで活用し、現実に起こっている問題について考えさせ、自ら意見をもたせる。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、時事問題を多く扱ったことで、生徒の社会的事象に対する関心は高まっている。 ・小テスト等からは、知識・技能の定着が見られた。一方で、学習内容をさらに深く理解しようとしたり、自分の考えを言葉で表現しようとしたりする力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な社会的事象からの課題の追究を通して、現代社会の特色や課題に対する理解を重ねていくことが必要である。 ・資料を分析し、情報をまとめて言葉で表現する力を育てると同時に、他者との交流とその後の意見の再構築を通して、自分の考えを深める面白さに気付かせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、学習内容と身近な事象とを関連させて関心を持たせた上で、ワークシートを活用し、写真資料やグラフを読み取り、自分の言葉でまとめる学習を積極的に取り入れる。 ・授業の終末、単元末に、ポイントとそれに対する自分の考えをまとめる学習を取り入れる。 ・家庭学習の方法の例を紹介し、小テストや定期考査での学習と関連付けながら知識の定着を図り、東京都立高校入試に向けた学力を身に付けさせる。

(3) 数学科

<p>数学科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 繰り返しの学習を行うことで、基礎・基本の確実な定着を図る。 ○ 話し合い活動を取り入れ、いろいろな見方、考え方を学ぶ場面を増やし、活用の力をつける。
<p>令和3年度「中野区学力にかかわる調査 数学」の結果より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的には校内平均正答率が目標値を上回っているが、区の平均正答率より下回っている項目(「関数」)も見られる。よって、特に「関数」分野における指導の充実を図っていくことが重要である。

【中学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・区の調査における校内平均正答率は目標値を上回っているが、区の平均正答率より下回っている。 ・観点別では、「活用」は目標値及び区の平均正答率を上回っているが、「基礎」の分数や小数の計算問題、平均の考え方を使って全体の量を予想することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・下位層では小5段階での技能の定着が不十分である。小数や分数、約分などが含まれる問題や平均の考え方の定着が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算問題に多く取り組ませ、基礎・基本の定着を図る。また、個に応じた課題を作成し、小数や分数を含む問題の反復練習を通して計算力の向上・定着を図る。 ・授業だけではなく、放課後の自習教室(まなびや)を活用し、フォローアップワークシートや東京ベーシックドリル等で、小学校問題の演習を繰り返し行い、定着を図る。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・区の調査における校内平均正答率は目標値を上回っているが、「図形」、「関数」、「資料の活用」の分野では、区の平均正答率を下回っている。 ・「数と式」は高い正答率であるが、「資料の活用」の累積度数についての理解が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「基礎」(数学的な技能)については、概ねよいが、「活用」(数学的な見方や考え方)が弱い。 ・「関数」では、表・グラフからの読み取りとその理解が不十分である。 ・「資料の活用」の分野では、累積度数についての理解が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、日々の授業で、計算問題に取り組ませ、基礎・基本の一層の定着を図る。 ・「関数」では、表やグラフの読み取りを丁寧に扱い、対話を積極的に取り入れながら問題解決力の向上を図る。 ・「確率」分野の学習は、「資料の活用」の復習を兼ねることで、相対度数や累積度数についての理解を深めさせる。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・区の調査における校内平均正答率は目標値を上回っているが、「連立方程式の利用」や「一次関数の利用」などの「活用」の分野における正答率が低い。 ・「資料の活用」における四分位範囲についての理解が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「基礎」(数学的な技能や知識)は定着しているが、「活用」(数学的な見方や考え方)の定着は不十分である。 ・ほかの単元に比べて「関数」の分野の定着が不十分である。 ・文章から読み取る力や知識を活用し、問題を解く力の定着が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算問題に多く取り組ませ、基礎・基本の一層の定着を図る。 ・単元ごとに既習事項を確認した上で、新たな学習に取り組ませる。 ・「関数」では、式と表とグラフの関係を丁寧に扱う。また、「関数」の活用では、理解度に合わせ、考え方についても丁寧に説明し、生徒が主体的に問題解決に取り組めるようにする。

習熟度別少人数指導の充実に向けて

・一人ひとりのつまづきに応じ、少人数指導のクラス編成を適宜組み替えるなど、丁寧な指導を行うようにする。

(4) 理科

理科の重点

- 実験や観察等、生徒の実践的な活動を実施できる範囲で取り入れながら、日常の生活における様々な現象や自然に関する事象を科学的に捉え、自ら説明できる力を育成する。
- 言語活動を取り入れ、意見の交換や自らの考察を文章でまとめ、他に伝える力を育成する。

【中学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・自然事象への関心が高く、実験などの活動に意欲的に取り組む。 ・実験結果から適切な考察を導く力が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じた実験手順を考える力が不足している。 ・自分の考えを適切に伝える力を育てる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の目的を板書し、全員が意識できるようにする。また、実験の様子を観察しながら、適宜声掛けをする。 ・個人で考える活動とグループや全体で結果や考察を共有する活動を取り入れ、適切な伝え方を考えさせる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・自然事象と日常生活との結びつきが薄い。 ・自分の考えを的確かつ分かりやすい文章で書き表す力が不足している。 ・実践的活動において目的や流れを考えて活動する力には個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然事象に関心をもつ生徒とともたない生徒に大きく二極化している。 ・自分の考えを文章で表そうと努力するが的確に表す力が不足している。 ・実験や観察などの実践的な学習活動の不足により、基本的な知識・技能の定着が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然事象が身の回りのどのようなことと関わっているか、結び付けられるような課題を与え、関心をもたせる。 ・考えを的確に書き表すために必要な用語や知識の定着を促すため、基礎・基本を確認する時間を設けたり、キーワードを提示したりする。 ・新型コロナウイルス感染予防を徹底し、できる範囲で実験や観察を行う。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律が守られており、学習に対して意欲的な生徒が多いが、前年度までの学習内容が定着していない生徒もいる。 ・自分の予想や考えを言葉で表現することに苦手意識がある生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを適切な言葉で表現することが苦手である。 ・実験の考察における分析が不十分である ・新型コロナウイルス感染防止のため、実験・観察やグループワークが十分に実施できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントに自分の考えをまとめ、その意見をGoogle Classroomに投稿することで、意見を発表することへのハードルを下げ、考えを全体で共有していく。 ・考察を書く機会を増やすことで、生徒が自らの考えを深め、振り返るきっかけをつくる。 ・動画や演示実験を取り入れ、擬似的な実験を体験することで、理解を深めていく。
3年			

(5) 音楽科

音楽科の重点

- 生涯にわたり音楽を愛好する心情を育成するとともに、深い学びにつながるよう「見方・考え方」を働かせて実技活動に取り組む力を高める。
- 実技活動の中で、自己評価・工夫・判断等を繰り返し、音楽をつくりあげる喜びを体感させ、音楽における学力の向上を図る。

【中学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽活動への関心は高く意欲的に取り組む。 ・模範の演奏を聴取したり楽譜を読み取ったりする活動では、大まかなイメージはつかめるが、細かい部分には気づきにくく、根拠や理由を言葉にする力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関心や意欲と比較して、実技の精度が不十分である。 ・考えたり書いたりする活動時間が長くなると集中力が続かない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の楽しさやインパクトだけでなく、自分たちで音楽をつくりあげる活動を多く取り入れ、体感させる。 ・生徒の発言や気づきを共有し、フィードバックする活動を取り入れる。 ・考えたり書いたりする活動を行う際は、短時間で区切り、それを積み重ねる形式を多く取り入れる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽活動への関心は高いが、じっくり聴き取って表現したり、表現活動を工夫したりする姿勢が求められる。 ・楽譜を読み取ったり、演奏したりする力に差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現する工夫について考えたことを言語化することが苦手な生徒がいる。 ・音楽に関する用語を使いこなせる生徒が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の意見を参考にして自己の意見を考えたりまとめたりできるように、授業の形態を工夫する。 ・取り扱う分野や楽曲について、多くの生徒が興味・関心をもつことができるよう、ポイントや内容を絞り、授業を展開する。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・真摯に音楽や活動に向き合うが、音楽文化そのものに興味・関心の薄い生徒もいる。 ・聴き取る力や楽譜を読み取る力はあるものの、自分の考えや判断を言葉にすることが苦手な様子が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽活動への抵抗感や苦手感を払拭することが課題である。 ・聴き取った曲のイメージを言語化することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が感動できるような映像や音源を積極的に活用するとともに、取り組んだ結果に対し、更なる上達へのアドバイスを行う。 ・記述例を複数提示したり、文章のスタイルをあらかじめ示したりするなどして、言語化する手立てに工夫を施す。

(6) 美術科

美術科の重点

○表現や鑑賞などの幅広い活動を通して、生活や社会の中の美術文化や美術の役割・機能を学び、対象や事情を捉える造形的な視点や表現方法を工夫し、創造的に表すことが出来るようにする。

○基本的な表現技法などを確立し、造形的な良さや美しさ表現の意図と工夫について自ら主題を生み出し、それらを生活の中で活用していく姿勢を身に付け、生活を豊かにすることを旨とする。

【中学校】

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に美術に対する創作意欲は高く、毎回の授業に、真剣に取り組む、作品の完成度を追求する生徒が多い。 ・教師の説明を聞いておらず、指示したとおりに取り組むことができていない生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識・技能の定着が課題である。 ・継続して行うことが乏しい面があるので持続的な力を身に付けていく必要がある。 ・授業規律が守れていない生徒もおり、ルールの確認を繰り返し行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを有効に活用し視覚的に掲示し具体的に伝えることで、目標が明確になり創作意欲を促すことが出来る。 ・繰り返し復習を行い基礎・基本の知識や技法を学び継続的な力を身に付けるように指導する。 ・机間指導で十分に観察し、自分の考えを具象化出来るようにアドバイスを行う。 ・毎時間、授業規律の確認を行う。掲示物などを有効に活用してルールや準備、片付けなどを徹底する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律を確認することで、基礎的・基本的な技能を身に付けさせることができた。また、能力のある生徒が多いので、集中して取り組めば発展的な発想や技能を追求する生徒が多くいる。 ・教師が助言することで自身が表現したいイメージに気付く生徒が多い。その結果、イメージを表現する方法を知り、喜びを覚えるなど、素直に授業に取り組む様子が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールを理解すれば、意欲的に取り組む生徒が多く、能力を発揮できる生徒が多い。さらに表現に磨きがかかるように指導する。 ・制作における向上心を持続していく指導をする。 ・苦手意識のある生徒の意欲を高める授業改善を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ルールの確立をさらに徹底する。また、本時の目標や制作の仕方を明示するとともに、制作動画などを流すなど、生徒の制作意欲をかき立てるような指導を行っていく。 ・鑑賞の授業等を行い美術文化に対する見方や感じ方を深める。また資料を活用するなど発展的な取り組みが出来るように指導し、作品制作のヒントに繋げ、意図に応じて自分の表現方法を生み出すように促す。 ・机間指導で、一人ひとりに丁寧に声掛けをし、よりよい制作を支援する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な知識・技能、表現が身に付いている。また、集中して取り組む姿勢が見られ、時間内で制作が終わり、完成度の高い作品を制作する生徒が多く見られる。 ・制作に対する意欲が高く、熱心に取り組んでいる生徒が多いが、苦手意識のある生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成前に作業を終える生徒がいるので、完成度をさらに追い求めるよう促す。 ・苦手意識のある生徒などは美術の創作活動の喜びを味わえる教材開発を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインの表現をさらに追求出来るように、効果的な描写の資料を提示したり、助言したりする。また、目標を明確にして、生徒の表現意欲を高めるよう指導する。 ・苦手意識のある生徒には、鑑賞の授業を行い美術の役割や機能を学ばせるとともに、作品制作に関連して、学ぶことの出来る授業を展開していく。 ・随時、途中段階での評価を行い、完成に向けて計画的に進めていけるように促す。

(7) 保健体育科

保健体育科の重点

○運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる。

○運動の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

○運動を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにする。

【中学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> 男子の体力レベルは、東京都平均と比較して、全体的に低い傾向がある。特に、反復横跳び、ハンドボール投げ、持久走に課題が見られる。 女子の体力レベルは、東京都平均と同程度である。ハンドボール投げ、持久走に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力を引き上げる必要がある。特に男子は、全ての項目で全国平均を目指すことが求められる。 自分の体力レベルを把握させ、自ら意欲的に運動に取り組む態度を身に付けさせることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に体力を向上させるために、補強運動や5分間走を取り入れる。 自ら意欲的に運動に取り組むことができるよう授業内容を工夫し、個々の体力レベルに応じた支援を行っていく。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 男子の体力レベルは、東京都平均と比較して、全体的に低い水準にある。特に、長座体前屈、立ち幅跳び、ハンドボール投げに課題が見られる。 女子の体力レベルは、東京都平均と比較して全体的に低い傾向がある。特に、長座体前屈、立ち幅跳び、ハンドボール投げに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力面や技能面において、生徒間で大きな差が見られることが課題である。男女ともに、東京都平均を目指す必要がある。 授業には熱心に参加しているが、運動の基礎・基本が身に付いていない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間、補強運動や5分間走に取り組みせるとともに、運動量を増やすことで、体力向上を図る。 5分間走で走った連続距離を「5分間走マップ」に記録させることで、達成感を味わわせる。 自分の課題を明確にし、個人目標を設定させ、ワークシートに記入させることで、課題達成に向けた意欲を高めさせる。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 男子の体力レベルは、東京都平均と比較して、全体的に低い水準にある。特に、長座体前屈、立ち幅跳び、ハンドボール投げに課題が見られる。 女子の体力レベルは、東京都平均と比較して全体的に高い傾向がある。ハンドボール投げには課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に授業に熱心に取り組んでいるが、男子の体力レベルに課題が見られることから、東京都平均を目指す必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」の結果を基に、自分の課題を分析し、運動計画を立てさせる。 継続して補強運動や5分間走に取り組みさせることで、総合的な体力向上を目指す。

(8) 技術・家庭科

<p>技術・家庭科の重点</p> <p>○調べ学習、まとめ、発表を通して、情報処理能力の育成を図る。(家庭)</p> <p>○被服、調理実習や実験を通して、解決策を考える力や実践を評価、改善する力、考えを表現する力を身に付ける。(家庭)</p> <p>○基本的な技能の習得と、それに伴う課題の解決をする能力を身に付ける。(技術)</p> <p>○日常生活の中で活用する場面を考え、生活を豊かにすることができる。(技術)</p>

【中学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを活用して情報を収集することはできるが、集めた情報を適切に分類、整理することが苦手である。(家庭) ・「衣服」に対する関心が薄い。(家庭) ・丁寧に作品を創り上げようとする意欲が高く、積極的に学習を進めている。(技術) 	<ul style="list-style-type: none"> ・収集した情報の中から、重要な部分を引き出し、整理し、活用できるようにする必要がある。(家庭) ・TPOに応じた衣服の選択についての興味・関心を高める必要がある。(家庭) ・ものづくりを行う際、材料をしっかりと固定して作業をすることができない生徒がいる。(技術) 	<ul style="list-style-type: none"> ・要点を整理する学習活動を意図的・計画的に取り入れたり、効果的な情報のまとめ方について、相互に学ぶ機会を設けたりする。(家庭) ・自分で時や場に応じた衣服を適切に選択できるよう、絵や写真などを用いた事例を活用して、衣服の機能や品質表示の知識を身に付けさせる。(家庭) ・作業工程表を活用したり、作業の方法を動画で確認させたりするとともに、机間指導を通して個別に繰り返し指導する。(技術)
	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の収集、整理はできるが、根拠を基に自分の考えを表現することが苦手な生徒が多い。(家庭) ・「食生活」に関する意識は高い。(家庭) ・情報を収集し、まとめることは概ねできている。(技術) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを根拠を踏まえて具体的に書く力が不十分である。(家庭) ・献立作成等、作業の途中で、学習が遅滞してしまう生徒がいる。(家庭) ・作業の際に途中で諦めてしまう生徒が見られる。(技術) ・まとめたことを表現することに課題の残る生徒に対する指導が必要である。(技術) 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、ワークシートを活用して自分の考えを論理的にまとめる活動を取り入れる。(家庭) ・献立の作成手順を変更し、生徒が取り組みやすいところから作業ができるように助言する。(家庭) ・一緒に不具合の箇所を探して、修正し、改善を図ることによって、達成感を味わわせる。(技術) ・多くの情報を欲張らずに精選して表現できるように指導する。また、聞き手側の立場に立って考えられるように指導する。(技術)
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しをもって計画を立てる、改善しながら調整していこうとする力の育成が課題である。(家庭) ・学習意欲が高く、進んで作業に取り組もうとする生徒が多い。(技術) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身が自己の技術の程度を把握した上で、目標を立てることが苦手である。(家庭) ・ものづくりや情報処理に対し、苦手意識のある生徒もいる。(技術) 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、「実習計画表」に進度や改善策を記入させ、作業に取り組ませることで、生徒自身が完成のイメージをもちながら見通しをもって作業が行えるようにする。(家庭) ・一人ひとりの課題やつまづきに応じて個別指導を行うことで、「できる」体験を味わわせ、達成感を得られるようにする。(技術)

(9) 外国語科

<p>外国語科の重点</p> <p>○「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の4技能を総合的に育成する指導を充実させ、外国語を用いて自らの考えや気持ち、事実や考えなどを相手に伝える「発信力」を高め、外国語をツールとして円滑にコミュニケーションを図ることができる能力を育成する。</p>
<p>令和3年度「中野区学力にかかわる調査 外国語」の結果より</p> <p>○どの項目も目標値を超えている。特にリスニングはどの学年も大きく超えており、オールイングリッシュによる指導の成果と言える。語彙指導においては、英語科教員全員で指導にあたっており、その結果、第3学年の結果は、区の平均正答率を大きく上回っている。</p>

【中学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・「聞くこと」「話すこと」は概ね出来ているが、文字の学習に課題があり、「読むこと」と「書くこと」につまずきのある生徒が多い。 ・上記のことから、苦手意識を持つ生徒が一定数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4技能を指導していく中で、「読むこと」と「書くこと」を丁寧に指導する必要がある。 ・コミュニケーション活動等を通して、「できた」「分かった」「楽しい」という気持ちをもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で音読ができていることの確認を丁寧にするとともに、家庭学習でもタブレットを使って練習できるよう指導する。「書くこと」にも授業や宿題で、毎回取り組めるよう配慮する。 ・様々な学習形態を取り入れ、練習の機会を十分に確保し、テストなどで「できた」と思わせるよう、指導する。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・区の調査において、校内平均正答率は、目標値よりも上回っているが、区の平均正答率より下回っている。 ・「聞くこと」は、ほとんどの問題で上回っているが、「読むこと」の「語形・語法」の理解が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿った英作文を苦手とする生徒が多い。 ・一般動詞過去の疑問文と所有代名詞の理解が定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業で、自分の意見について理由や具体的な根拠を加えて説明する活動を取り入れる。さらに、各単元の表現の目標を暗唱や Retell にとどめず、自己表現活動にもつなげ、豊かな表現力の育成を目指す。 ・上記の活動を繰り返し行っていく中で、「語形・語法」の理解を促す指導を行っていく。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・区の調査において、校内平均正答率は、目標値よりも上回っている。特に「聞くこと」「書くこと」の問題は、区の平均正答率より高い。 ・「語形・語法」の理解に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面に応じて英作文を書く力を伸ばすことが求められる。 ・動名詞の理解が定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1, 2年の内容で、定着できていない部分を授業や家庭学習で振り返り、復習しながら、押さえていく必要がある。 ・教科書の Scenes や Think で出てくる既習事項の振り返りを丁寧にいき、定着に向けて、適切な課題を提示する。 ・問題集を活用し、反復学習を行うとともに、実際に使用する場面を設けることで、定着を図る。

少人数指導の充実(実施校)に向けて

- ・感染防止に留意しながら、ペア活動やグループワーク等を多く取り入れ、生徒の言語活動の機会を充実させる。また、発話の様子を観察し、適切に助言することで、生徒の言語能力を高める。

ALTの活用の工夫

生徒が習得した知識・技能を生かし、自分の考えや体験、気持ちなどをALTとの会話の中で適切に表現できるように、実際にコミュニケーションを行う場面、状況を設定し、会話のやり取りを行わせる。